

山中第2棟タスクフォース活動報告

すぎやま よしこ
杉山 良子

(三田メディアセンター課長)

1 はじめに

平成26年度第3回事務長会議にて、メディアセンター本部から時限的なタスクフォースの設置が提案、承認された。本稿は2014年6月から2016年3月まで7回開催された「山中第2棟タスクフォース」会合での検討内容をまとめたものである。

2 山中第2棟タスクフォースについて

(1) 設置の理由

白楽サテライトライブラリー（以下、白楽）からの撤退期限や資料の移転作業期間が確定したことを受け、移転資料や移転方法、予算確保、データの整備や更新の準備などの事前作業について、集中的に検討し、実行に移す必要があるため。

(2) 役割

a 白楽から山中資料センター（以下、山中）2号棟¹⁾への資料の移転、および各メディアセンターからの山中2号棟への資料の移転に関する諸事項について、方針を決定し、実際の移転作業を統括する。

b 移転後の山中資料センターの運営方法について検討する。

(3) 活動時期

2014年6月の検討開始から、2015年11月に始まる移転作業が完了し、山中資料センターの安定的運用が確認できるまで。

(4) メンバー

杉山良子（主査・三田）、木下和彦（三田）、関秀行（本部）、河野江津子（本部）、柴田由紀子（日吉）、山中みどり（理工）、神谷優子（信濃町）、児島知子（湘南藤沢）、関恭子（薬学） 以上9名

3 検討事項

(1) データ関連

a 移転資料のデータ整備

資料移転を行うためには、書誌・所蔵データを事前に確認・整備しておく必要がある。データを確認したところ、白楽には三田管轄のものを中心

に約3万6千件の資料が未登録または書誌が作成されていないことがわかった。そのため、それらの遡及入力作業を2015年夏までに最優先で行うことにした。

b 所蔵データ修正のスケジュール

移転作業の準備のため、いつから白楽の利用を停止するかを最初に決めた。利用停止期間はできるだけ短い方が望ましいが、山中2号棟への資料移転に伴って所蔵データの配置場所変更や状態更新を適時に確実にを行う必要があり、移転開始前の1ヵ月をデータ変更作業の期間に充てることにした。このため、夏期長期貸出の一斉返却後の2015年9月30日を利用停止日にした。移転作業は翌年3月までの予定であったため、半年間、白楽資料の利用が出来ないことになった。

c 各メディアセンターでの事前作業

システム的な作業負荷の観点から、1,000件以上の大量なデータの一括修正や更新は2015年6月末日を期限とし、移転作業開始前の白楽と各地区間の資料移動やスリム化のための大量除籍はそれまでに終えることにした。

d 利用停止後のスケジュール

(a) 10月中旬に所蔵データを確定

(b) 白楽資料のインベントリ

(c) その結果齟齬が見つかったデータの修正

(d) 移動対象資料の所蔵データを最終確定、一括変更のための事前確認

(e) 約45万件の所蔵データの以下の項目の一括変更を開始

・地区を白楽から所蔵館へ

・外部書庫IDと配置場所を山中2号棟へ

・状態を「再整理」（利用不可状態）へ

さらに資料移転後に取寄せを可能にするため、移転と並行して、順次、状態を「外部書庫」に変更

後述するが、図書館システム上、所蔵館(Sublibrary)としての「白楽」が存在しなくなるため、白楽配架時に除籍、欠本処理をした資料については、台帳上

特集2 新たな保存書庫：山中資料センター2号棟

の記録という位置づけで、所蔵館を白楽から元の所蔵地区へ戻し、配置場所を「白楽」に変更した上でデータを残すことになった。

(2) 運用関連

a SublibraryかDepositか

本学が使用している図書館システムAlephでは、個々の図書館を、「ひとつの図書館」として扱う“Sublibrary”の設定にするか、外部書庫として扱う“Deposit”の設定にするかを決める必要がある。白楽は開設当初から来館利用が可能のため、ひとつの図書館としてSublibraryの設定が必要だったが、山中は非来館型の保存書庫という位置づけで、基本的に各キャンパスに資料を取り寄せて貸出・利用することになるため、Deposit（各メディアセンターの外部書庫）に設定することに決めた。長年運用してきている山中1号棟でDeposit設定のもとでの図書取寄せの実績はあったが、今後は図書取寄せが格段に多くなることが予想されるため、全塾閲覧担当者会議のメンバーが、外部書庫設定での資料取寄せのテストを重ね、運用に支障がないように準備を進めた。

b 配置場所コードの新設

外部書庫（Deposit）に設定することになったため、各メディアセンターのもとに、新たに山中2号棟の配置場所コードを作ることになった。当初、資料群や配架場所（1階か2階か）ごとに細かく設定する案もあったが、山中のスタッフが出庫作業をする際には、山中1号棟との区別だけで十分であると判断し、全地区共通で「山中資料センター第2」（YSC2）を設定することにした。またDeposit設定に必要な外部書庫IDは従来使っているYMNKを用いることにした。

c 山中2号棟での配架

白楽では配置資料の将来的な増加分を見越して各棚に少しずつ空きを持たせて配架をしていたが、山中では収納効率を優先するため、各棚に空きを作らずに最初から詰めて配架する方針を立てた（今回の白楽移転計画と同時に、将来山中2号棟が満杯になるまでの移転計画を立てたため、各棚にその後の増加を見越した余裕を持たせる必要はなくなった）。このため、資料移転前に白楽の空きスペースを詰め、1棚単位で正確な移転ができるように調整した。

d 山中での資料管理

本学では資料管理のためにバーコードラベルを使用しているが、白楽の一部の資料にはかつて三田メディアセンターで使用していたOCRラベルのみのもの、もしくはバーコードもOCRも貼られていないものがあった。今後の資料管理のために全資料にバーコードラベルを貼付すべきという意見がある一方で、手間やコストを考えると不要という意見も多かった。しかし白楽から山中2号棟へ資料を移転する際、事前に資料とデータをマッチングするためのインベントリ作業が必要であるとの判断に至り、急遽、すべての資料にバーコードラベルを貼付することになった。

e 運用方針の見直し

従来、雑誌資料やレファレンスブックは山中、白楽に保管されていても、所蔵館だけが取寄せ可能という運用だった。そのため、同一タイトルであってもそれぞれの地区で重複して保存する必要があった。今回、限られた保存書庫スペースの有効活用という観点での検討を推し進め、山中配架分については、今後どのキャンパスからでも取寄せ可能とする運用に変更した。ただし、貸出規則は資料の所蔵地区のものが適用されるため、取寄せ資料によって貸出の可・不可が異なるケースは今後も起こり得る。

(3) 移転作業

a 移転資料のスリム化

移転準備の一環として、白楽に配架されている資料を所蔵館ごとに見直し、重複資料の除籍、マイクロ資料や取寄せに不向きな大型本などの資料を所蔵地区に戻すなど、移転資料のスリム化を進めることにした。一方で、薬学メディアセンターの資料は元々白楽には配架されていなかったが、芝共立キャンパスの書庫縮小を余儀なくされ、箱詰めした資料900箱（約1万冊）を白楽に仮置き、山中2号棟に移転することになった。最終的に、各地区で除籍を進めた結果、2014年6月時点で約48万冊だった資料は移転時には約45万冊になった。

また、白楽からの移転資料に加えて、今後の各メディアセンターからの移転計画を確定して、早目に山中2号棟全体の資料の概数（冊数、棚段数）を把握できるようにしていくことも求められた。

b 移転スケジュールの決定

白楽撤退期限は当初2015年12月末日に決まったが、資料の移転と書架の移転を担当する業者が詳細を詰めた結果、年内に白楽からの移転作業をすべて終えることは不可能であることが判明した。これを受け白楽の貸主と交渉し、賃借の期限を2016年3月末まで延長してもらうことになった。その後、2015年8月に移転作業の工程案が提示された。白楽の1フロアごとに資料移動と書架解体・山中2号棟への搬送・組立を交互に行うことになり、2015年11月～2016年3月にかけて、4回に分けて資料と書架を交互に山中2号棟に移転するスケジュールが固まった。資料の移動よりも書架の移動が想像していた以上に時間のかかるものとなり、2016年3月までぎりぎりのスケジュールが組まれた。

c 書庫レイアウト（書架マップ）

2015年に入り、山中2号棟の配架予定資料をざっと配置した書架イメージ案ができあがった。白楽の書架状況表をもとに、その後の資料の増減を反映したもので、当然のことながら白楽からの移転資料を収めた上で各メディアセンターからの希望を取り込んだ移転計画をまとめることになるが、この時点で三田、理工学、信濃町の各メディアセンターが希望する資料すべてを移転するには書架が不足することがわかった。今後、1号棟の配架資料の見直しも含めて、山中全体でスペースを見直すとともに移転資料そのものの調整を行う必要が確認された。

(4) 広報

白楽の閉鎖と山中2号棟への資料移転、およびそれに伴う資料の利用停止期間について利用者に早めに広報する必要がある、移転開始の1年前に当たる2014年秋に開催される各地区のメディアセンター協議会を皮切りに、ウェブでの広報を2015年4月に開始した。ここでは2015年10月以降6か月間、白楽の来館利用も資料取寄せもできなくなることを、2016年4月から山中2号棟での運用が始まり資料が利用可能になることを中心に周知することにした。全体広報として、メディアセンターのポータルサイトに「白楽サテライトライブラリーの閉鎖および山中資料センター第2棟開設について」というニュースを掲載し、その後は、資料移転に関わる地区が必要に応じ

て補足の広報をしていくことにした。移転直前の2015年7月から9月末日までの間に貸出される資料は返却期限を移転終了後の2016年4月13日まで延長し、これを期に三田メディアセンターも貸出冊数を無制限にする規則変更を行った（6月に広報を追加した）。2016年1月に無事に資料の方は移転作業が終わり、2016年2月8日には「旧白楽サテライトライブラリー配架資料（山中資料センター2号棟配架資料）の運用再開について」というニュースを掲載することができた（この時点で残りの書架の移転は終了していなかったが、資料の取寄せ再開は可能と判断し、試験運用という形で予定より早めに再開した。書架の組立は3月25日までかかった）。

(5) 経費

a 移転に伴う経費

タスクフォースが設置された2014年の時点で、資料移転に伴う予算確保が各地区の最も重要な関心事だった。2015年度に行われる白楽から山中2号棟への資料移転の経費は、メディアセンター本部が白楽移転費用として一括計上することになった。2016年度以降、各メディアセンターからの資料移転費用はそれぞれの地区が予算申請をすることになった。

b 運用に伴う経費

2016年度以降は、白楽の年間賃借料や人件費を財源として山中の運営経費（人件費増や資料取寄せ運搬費）を本部が予算化する。山中からの取寄せには新たな運搬費がかかる²⁾。これには民間の宅配サービス業者を利用することになる（後述）。当初は週3回程度の配送に制限するという案も出されたが、最終的には利用者の利便性と財源との兼ね合いを考慮して、制限なく（毎日でも）取寄せは可能とした。運搬費については1年間の実績を確認したうえで調整を考えたい。

4 その他の検討事項

(1) 配置レイアウト

白楽からの移転資料は図書が多く、出庫作業の効率を考え、白楽からの最初のロットを収める新設書架（30万冊分）は当初1階に設置する予定だった。しかし山中2号棟現地での移転作業のためのスペース確保を考えた結果、新設書架は2階に設置し、1階は当面部材やブックトラックの置き場所とするこ

とに決めた。

(2) 大型書架の設置

収容能力を最大限にするため、奥行き21cmの標準書架をできるだけ多く設置することにした。そのために、事前に別置されている大型資料の棚段数を確認し、次に一般書架にある高さ35cm以上の本を抜き出し別置するなどして、追加の棚段数を算出した。特に高さが40cm以上あるような地図類は取寄せに不向きなこともあり、極力所属地区に戻すことにした。その結果、山中2号棟では奥行き32cmの大型本用の書架は1階、2階に一本ずつ、計80連のみを設置することにした。全体的には、棚は高さ28cmの7段組を基本とし、A4サイズが多いところは高さ33cmの6段組にすることにより、棚段数をできるだけ増やせるように調整した。

(3) 運搬業者の決定

資料取寄せのための運搬業者の選定はメディアセンター本部が中心に行い、複数業者で比較検討した。運用の安定性と価格を考慮した結果、最も安価な業者に決定した。資料の運搬には白楽と同じコンテナ利用ができれば最も経済的であったが、コンテナの循環は困難と判断し、ダンボールと封筒を使うことにした。これまでのところ、14時半までに申し込まれたものは、翌日午後には利用者の手元に届く運用ができています。

5 終わりに

タスクフォースが設置され、全メディアセンターからメンバーが集まり、白楽移転の課題のみならず、保存書庫のあり方についても意見を交換することが出来た。今回、保存書庫に配架した資料を一本化した上で、慶應義塾全体で共同利用する方針に変更できたことは大きな進歩である。保存書庫のスペースを有効利用するために今後も引き続き、資料の見直しをするとともに、学内のみならず他機関を含めたリソースシェアリング、共同保存について検討していくことが重要だと感じている。

資料移転作業の詳細と山中2号棟での運用については、本稿の木下氏のレポートを参照されたい。

注

- 1) 当初は新たな書庫の正式名称が決まっておらず、メディアセンター内の仮称を「山中資料センター第2棟」としたため、タスクフォースも「第2棟」を冠する名称になった。その後、建物の正式名称が「2号棟」となったため、本文中では「山中2号棟」として言及している。
- 2) 慶應義塾では各キャンパスを一日一回循環する「塾内便」と呼ばれる配送サービスがある。白楽はこの塾内便のルートに入っており、白楽と他のキャンパスの資料の運搬には個別の費用はかからなかった。